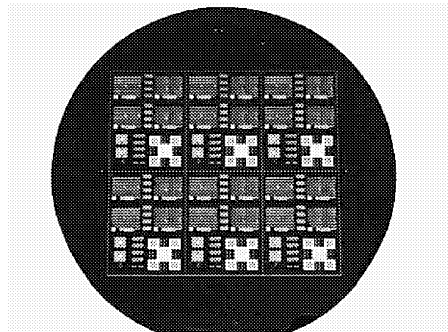


テクニク テレビ

薄型テレビなどで韓国メーカーの後じんを押ししている日本企業だが、テレビなどの性能を左右する電子部品の材料では、世界トップの技術水準を保っている。ただ、こうした虎の子の技術でも韓国勢などが急速に追い上げており、攻防も激化している。

今年1月、米ラスベガスで開かれた世界最大規模の家電見本市「コンシューマー・エレクトロニクス・ショー（CES）」で、韓国のサムスン電子とLG電子はそれぞれ、55型の大画面有機EL（エレクトロ・ルミネッセンス）テレビの試作

有機EL支える国産材料



出光興産がシリコンウエハー基板に作ったIGZO製のTFT（白い部分）。テレビではガラス基板上に作る

は様相が微妙に異なる。「駆動素子に使う半導体の性能で我々が開発した新材料は他社に負けな

出光興産がシリコンウエハー基板に作ったIGZO製のTFT（白い部分）。テレビではガラス基板上に作る半導体の性能で我々が開発した新材料は他社に負けな

出光興産がシリコンウエハー基板に作ったIGZO製のTFT（白い部分）。テレビではガラス基板上に作る半導体の性能で我々が開発した新材料は他社に負けな

出光興産がシリコンウエハー基板に作ったIGZO製のTFT（白い部分）。テレビではガラス基板上に作る半導体の性能で我々が開発した新材料は他社に負けな

世界トップ水準保つ 韓国が猛追 技術流出も

これまでインジウムを減らすと結晶が成長しにくく、ある大学教授は「最近、日本企業の材料技術者2人がサムスン電子に転職した」と明かす。テレビなど最終製品に続き、「最後の牙城」といわれる材料の技術まで国外流出が始まっている。

品を発表した。両社とも今年末には発売する予定だ。かつて液晶テレビは日本企業が世界に先駆けて製品化した。有機ELでは韓国が先陣を切る可能性が高まっている。こうした日本劣勢の状況でも、電子部品の材料分野

一見研究員だ。ディスプレイの画面は全面に整然と並べた薄膜トランジスタのTFTで制御する。液晶ではTFTにアモルファス（非晶質）シリコンを用いてきたが、有機ELでは電子が10倍以上速く動く材料が求められてい

出光は細野教授の研究を参考に、より低い温度で素子を作れ、性能も上回る材料を開発した。今年1月に論文を発表して以来、メーカーなどから問い合わせが相次いでいるという。共同研

ある大学教授は「最近、日本企業の材料技術者2人がサムスン電子に転職した」と明かす。テレビなど最終製品に続き、「最後の牙城」といわれる材料の技術まで国外流出が始まっている。

（黒川卓）